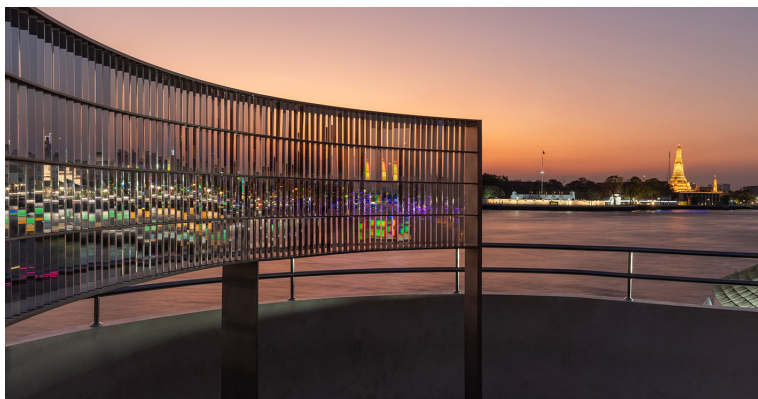


ディスレクシア当事者として 社会の理解と寛容を



Through the Looking Prism 藤堂高直と服部祐介(ambiguous)の共同作品 イタリア最大のデザイン賞A'Design Award銀賞、イギリス[d]arc awards、スイスLIT(Lighting Design Awards)を受賞

日本では中等学校まで学んだ。当時はいくら努力をしても結果が出ずに鬱屈としていた。漢字は覚えられず、誤字脱字が多く、計算式は理解できず、英単語及び文法は理解できない。もちろん、成績は下から数えた方が早かった。中等学校卒業後、単身英国へ留学した。日本で高等学校へ進む道もあったが、その道は暗

く赫々たる希望はなかった。

英国に留学をしてすぐ、会話能力に比較して読み書きの能力が著しく低いと現地の教員が察した。ディスレクシアの可能性があると、簡単な読み書きのテストを受けた。結果、軽度のディスレクシアと診断を受けた。小学校3年生並みの読みの能力との診断が、

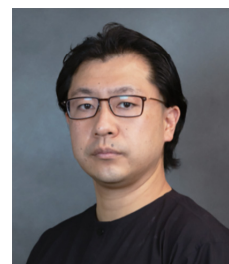
認定NPO法人エッジ理事 藤堂 高直

後に東京大学先端技術センターで調べたところ出た。

以降、英国ではスタディスキルという様々な勉強方法を学ぶ授業を受けた。試験時には困難さに応じた時間延長が与えられた。筆記が苦手な場合はタイピングや口頭試験の可能性も示唆された。タイピングはこの時に学んだ。キーボードを見えないようにトランクスで覆い、その中に両手を挿入して、絵と共に書かれた単語のつづりを指の感覚を頼りにタイプする訓練だ。試験時の対応は公平な条件の上で受験者の理解力を試すという考えの表れた。

また、英国の高等学校では60近くある科目の中から任意で科目を選択できる。良い結果を出そうとした場合、自分の得意な科目で試験を受けることができる。これらの制度は能力に凹凸のあるディスレクシアと相性が良い。結果、志望校である世界最古の名門私立建築大学、AAスクールに合格した。

大学内ではディスレクシアに対するサポートは



とどう・たかなお | チュロンコン大学教授(タイ)、建築デザイナー、陶芸家、エッジコンサルティング、認定NPO法人エッジ理事。世界各国で建築・アート設計をする傍ら、ディスレクシア当事者としてNPOで啓発活動を行う。

なかった。とは言え、教

授、生徒を含めてディス

レクシアが多数いたこと

もあり居心地は良く、前

衛的な建築手法において

ディスレクシアの持つ発

想力や空間認知能力は強

みであった。

学内で小論文を書く際

は、文法の誤りや誤字脱

字は大きな減点対象には

ならなかった。むしろ、

内容の深度や焦点が重視

された。必要な場合は英

語が流暢な友人に助けを

頼んだ。ディスレクシア

の理解が浸透していた学

内でディスレクシアであ

ることは大きな困難では

なかった。

国内に目を移す。日本

は世界をリードする建築

文化を有しているが、こ

れまで会った人の中で建

築に従事しているディス

レクシアは極めて少な

い。試験及び受験制度で

建築設計では塗炭の苦しみ

一方、日本における建

築設計では塗炭の苦しみ

一方、日本における建

築設計では塗炭の苦しみ

一方、日本における建

築設計では塗炭の苦しみ

を味わった。東京都の最

低賃金を大きく下回る給

料、社会保障は一切なし、

毎日終電まで働かされ、

週2回の徹夜も当たり前

前、パワーハラスメント

やモラルハラスメントの

横行、労働基準法に大き

く違反した労働環境だっ

た。さらに便所掃除、電

話対応、業者対応、お茶

くみ、議事録は新参者が

行う義務とされた。

特に、議事録はディス

レクシアにとって阿鼻叫

喚の地獄である。徹夜明

けの定例会では、建築専

門用語に法律や条例が頻

りに登場する。それらの

内容の書き取りを手書き

で強制された。ディスレ

クシアにとって書き写す

作業には多大な労力が必

要だ。ましてや内容の理

解に力を割く余裕などな

い。最終的に某行政と交

渉をしてiPadのSO

UNDNOTEという録

音とタイピングが同時に

できるアプリケーション

の使用許可が下り、状況

は多少改善された。

地道に築き上げた経験

と実績を糧に独立して、

現在はタイ国の最高学府

にて教鞭を執っている。

大学教育をするにあたっ

て様々な理論や論文を読

まなくてはならない。幸

いにも理論全般は日本語

に訳されている。ディス

レクシアにとって英語よ

りも日本語の方が比較的

負担が少なく読むことが

できる場合がある。また、

有名な学説は概要がユー

チューブで紹介されてお

り、耳と画でも覚えられ

る。それらを複合しなが

ら理論を理解した後には原

本を読む工夫をしている。

教える際は実体験を通

じた知識のつながりを伝

えている。論文は概要を書

き上げ、共同メンバーに

細かな部分を手伝っても

らう。

ディスレクシアが学

業、就労、学術で活躍す

る上で必要なことはいく

つかある。自分の強みを

最大限に生かせる工夫、

自分の短所が問題になら

ない環境探し、異なる能

力を持った仲間作り、そ

して何より社会の理解と

寛容が重要である。国内

の状況は改善しつつある

が、啓発、支援、理解、

社会的寛容が足りておら

ず、課題は多い。